



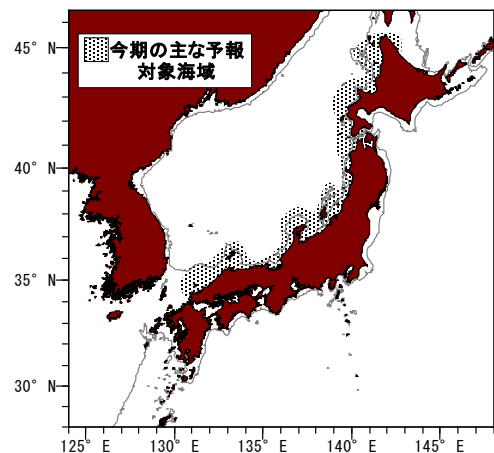
平成27年度 第1回 日本海スルメイカ長期漁況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産総合研究センター
日本海区水産研究所がとりまとめた結果 —

今後の見通し(平成27年5月~7月)のポイント

- ・ 来遊量は、前年及び近年平均を上回る。
- ・ 漁期の開始時期は、前年同様、近年平均並み。
- ・ 漁場は、石川県以北を中心に形成。

* 近年は最近5年間(平成22年~平成26年)



問い合わせ先

国立研究開発法人水産総合研究センター 日本海区水産研究所

担当：檜山、江連

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0850

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.fra.affrc.go.jp/>

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/>

平成27年度 第1回 日本海スルメイカ長期漁況予報

今後の見通し（2015年5月～7月）

対象魚種：スルメイカ

対象海域：日本海

対象漁業：主にいか釣り漁業

対象魚群：主に秋季発生系群

- (1) 来遊量：前年及び近年平均を上回る。
- (2) 漁期・漁場：漁期の開始時期は前年同様、近年平均並み。
ただし、漁場は石川県以北を中心に形成。

* 近年は最近5年間(2010年～2014年)

I 漁況予報

日本海におけるスルメイカの資源調査結果（2014年10月～11月の日本海スルメイカの幼生分布調査、及び2015年4月のスルメイカ新規加入量調査）と海洋環境予測を主要な情報として、今期（2015年5月～7月）の日本海におけるスルメイカの漁況を下記のとおり予想した。

【予想】

今期（2015年5月～7月）の日本海沿岸域へのスルメイカ来遊量は前年及び近年平均を上回ると予想される。漁期の開始は前年及び近年平均並みと予想される。ただし、漁場は石川県以北を中心に形成される見込み。

【情報】

- (1) 2015年4月に実施したスルメイカ新規加入量の調査結果では、今期に漁獲加入すると予想される外套背長5cm以上のスルメイカの採集尾数は前年及び近年平均を上回った。ただし、今期の漁獲対象となる群の採集位置は能登半島以北が中心であった。
- (2) 2014年10月～11月に実施したスルメイカの幼生分布調査では、幼生の分布密度が前年及び近年平均を上回った。
- (3) 漁期の開始時期に影響を与える4月中旬～6月の対馬暖流域の表面水温は「平年並み」、水深50mの水温も「平年並み」で推移すると予測されている。

II 説明

1. 調査結果

1) 4月におけるスルメイカの分布状況

<目的>

いか釣り漁業では外套背長15cm以上のスルメイカが主な漁獲対象となる。したがって、いか釣り漁業で漁獲される前のスルメイカ（主に外套背長2cm～10cm）の分布状況を事前に把握することで、その後の漁況を予測することが可能になる。そこで、日本海では主漁期前の4月に漁獲加入前のスルメイカの分布状況を把握するために新規加入量調査^{*1)}を実施している。なお、本調査で採集されたスルメイカのうち、外套背長5cm以上のサイズが今期（5月～7月）の漁獲対象になると想定される。

*1) 新規加入量調査：口径10m～12mの表層トロール網を用いた採集調査。各調査定点で3ノットの速度で30分間曳網して実施。

<結果>

2015年の調査結果（図1）では、主に能登半島以北で外套背長5cm以上のスルメイカが多数採集された。また、兵庫県から若狭湾沖では外套背長2～3cmのスルメイカが多数採集された。

1調査点あたりの平均採集尾数は107.6尾であり、前年（15.5尾）及び近年平均（36.1尾）を上回った。また、今期（5月～7月）の漁獲対象になる外套背長5cm以上の平均採集尾数も51.2尾であり、前年（8.8尾）及び近年平均（10.7尾）を上回った（図2）。そのため、今期のスルメイカの来遊量は、能登半島以北を中心に前年及び近年平均を上回ると予想される。

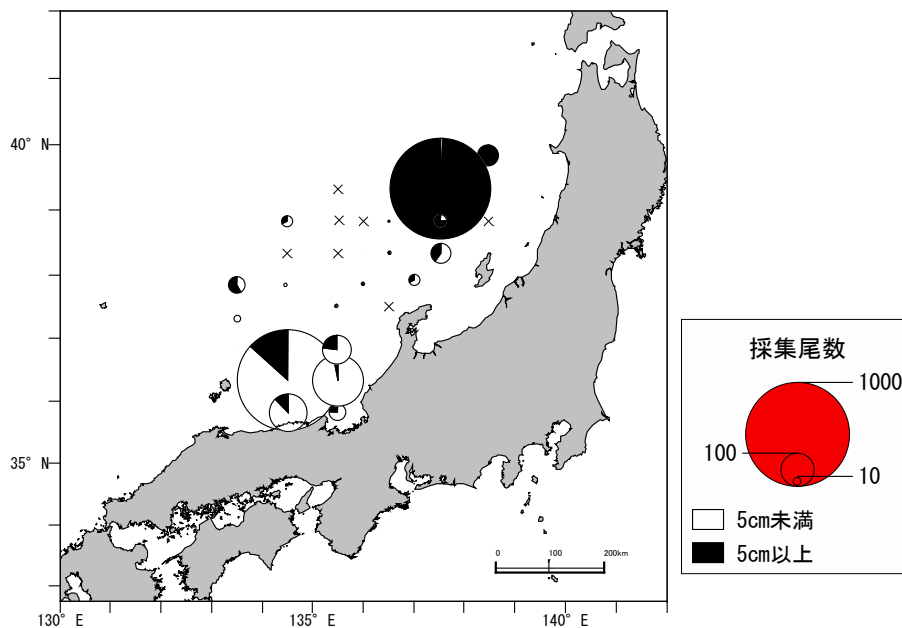


図1 2015年4月のスルメイカの新規加入量調査結果
（○の面積は採集尾数、×は採集されなかった調査点）。

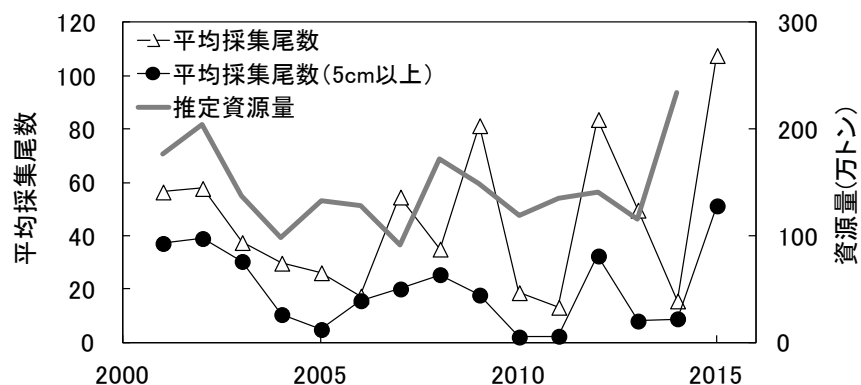


図2 新規加入量調査による平均採集尾数と推定資源量の経年変化
推定資源量は、前年度におけるスルメイカ秋季発生系群の資源評価調査結果の値。

2) 前年秋のスルメイカ幼生の分布量

<目的>

5月～10月の日本海では、主に前年の秋～冬に生まれたスルメイカ秋季発生系群が漁獲される。したがって、前年秋～冬のスルメイカ幼生の分布量は、スルメイカ秋季発生系群の親魚量（とり残し量）の指標値になる。そこで、日本海では、10月～11月にスルメイカの幼生分布調査*2)を実施し、前年のとり残し量の把握を行っている。

*2) 幼生の分布調査：口径45cmのプランクトンネット（網目0.33mm）を用いた採集調査。各調査点で水深150mまでの鉛直曳によって主に外套背長1～3mmのスルメイカ幼生を採集する。

<結果>

2014年も隠岐諸島から対馬海峡付近の広い海域で幼生が採集され（図3）、1調査点あたりの平均採集尾数は1.49尾であった。この値は2013年の調査結果（0.86尾）及び近年（2009年～2013年）平均（0.99尾）を上回っており（図4）、多数の親魚量が確保されていたと判断される。

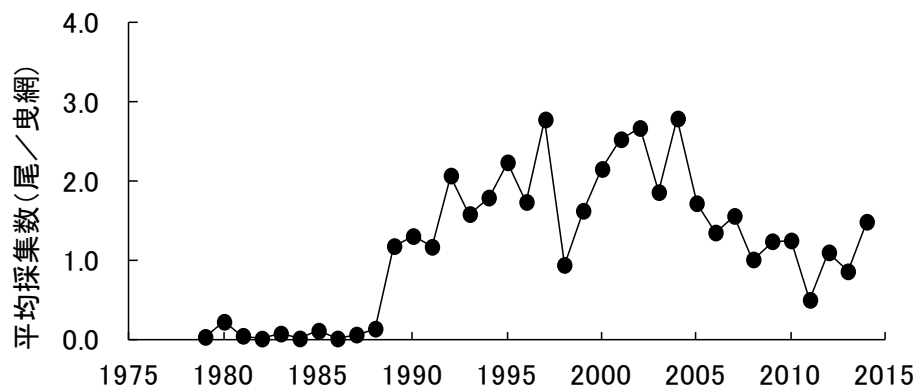
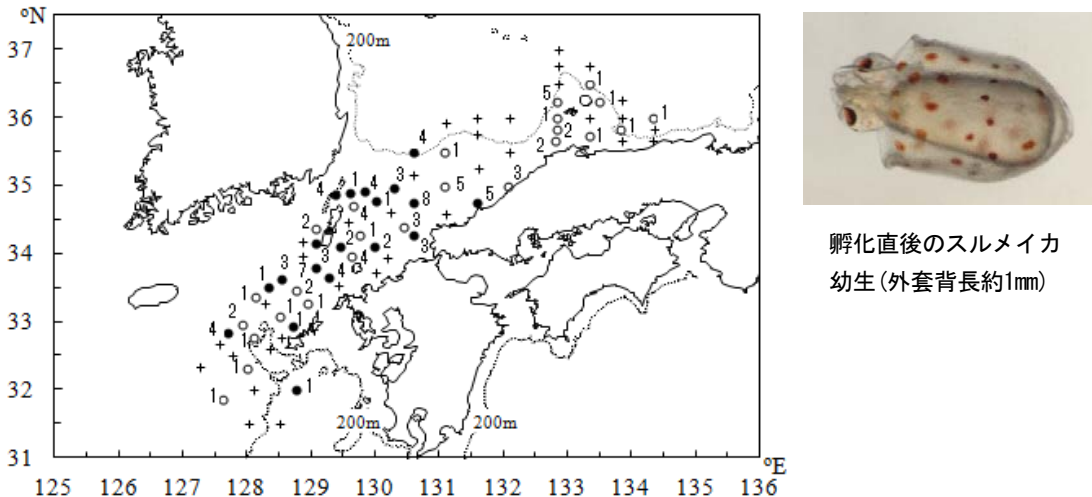


図4 スルメイカ幼生の1調査点あたりの平均採集尾数の経年変化

2. 日本海における海洋環境

スルメイカの分布回遊は水温と深く関連しており、沿岸域の漁期の開始・終了時期も水温に左右される。気象庁の資料*3)によると、2015年4月中旬の日本海における表面水温は、北緯40度付近で平年よりも低く、北緯42度以北で平年よりも高くなっている他はほぼ平年並みであった。また、平成27年度第1回日本海海況予報*4)では、対馬暖流域における4月～6月の表面水温及び水深50mの水温は平年並みで経過すると予測されている。したがって、今期のスルメイカ漁期の開始時期は前年同様、近年平均並みと予想される。

*3) <http://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/shindan/index.html>

*4) <http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr27/20150408/20150408press.pdf>

Ⅲ 日本海におけるスルメイカ漁況の経過

日本海では、1月～3月上旬は前年の冬に生まれたスルメイカ（冬季発生系群）が主に漁獲され、3月中旬～4月は前年の春～夏に生まれたスルメイカ、5月以降は前年の秋に生まれたスルメイカ（秋季発生系群）が漁獲の中心となる。

前年の予報対象期間（2014年5月～7月）では、5月の漁獲量はほぼ近年平均並みであったが、6月の漁獲量は西部日本海及び本州北部日本海で近年平均を下回った（図5）。7月の漁獲量は道南・津軽海域で近年平均を下回ったものの、道北・道央では近年平均並みであった。その後、各海域とも8月～11月までは漁獲量が概ね近年平均を下回る状況であったが、12月には漁獲量が増加し、近年平均を上回った。

2015年の経過として、本州北部日本海では、2月の漁獲量は近年平均を下回ったものの、3月は近年平均並みであった。西部日本海の1月～3月の漁獲量は、ほぼ近年平均並みの漁獲量であった。

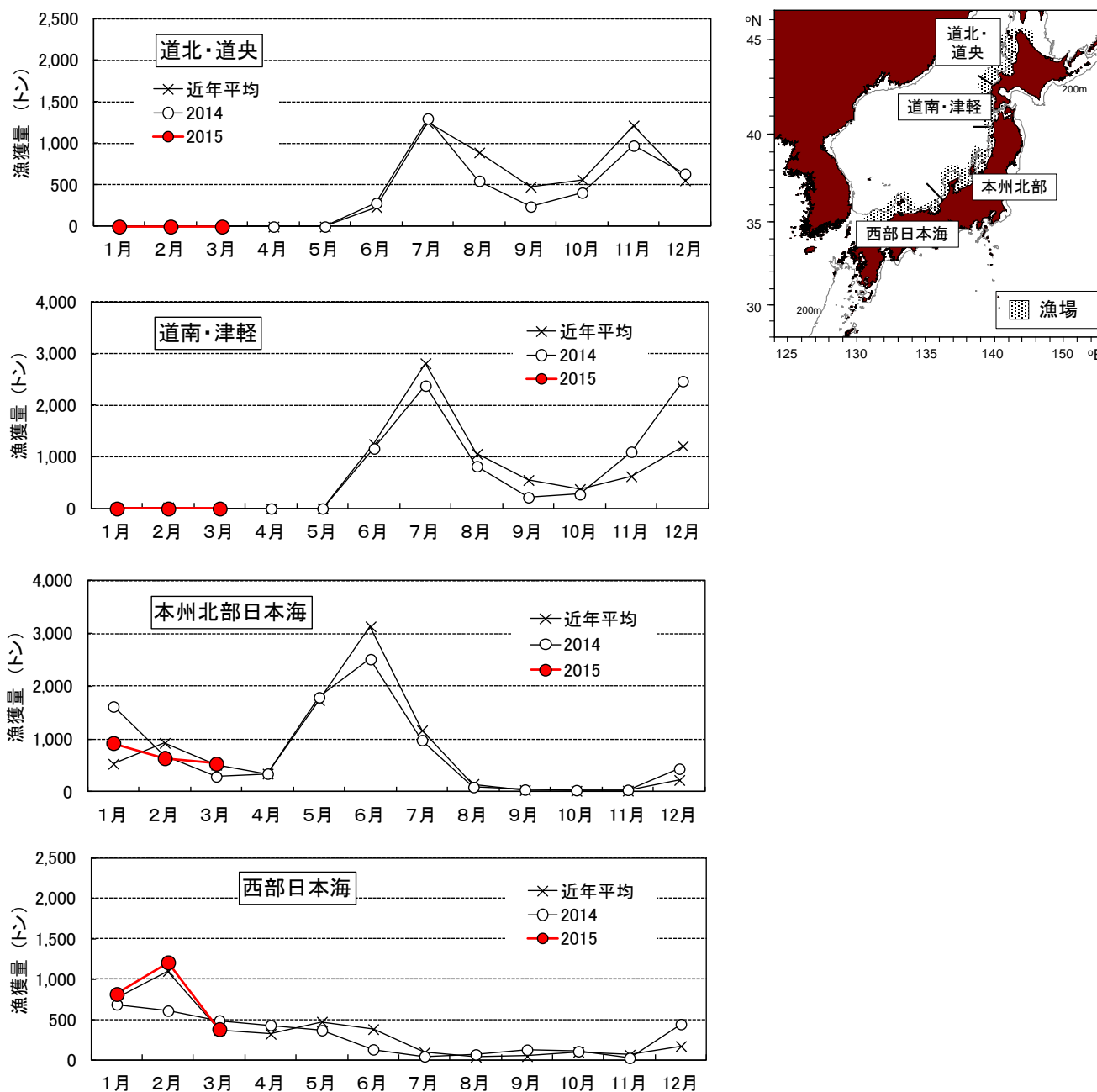


図5 日本海各地における漁獲量の経過（近年平均、2014年及び2015年、ただし、2015年は一部未集計及び速報値）

参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 中央水産試験場 函館水産試験場	京都府農林水産技術センター 海洋センター
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
秋田県水産振興センター	鳥取県水産試験場
山形県水産試験場	島根県水産技術センター
新潟県水産海洋研究所	山口県水産研究センター
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	長崎県総合水産試験場
石川県水産総合センター	一般社団法人 漁業情報サービスセンター (取りまとめ機関)
福井県水産試験場	国立研究開発法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所